

曹洞俳壇

選・村松五灰子

風邪癒えず媪おふむごかりを着ぶくれて

神奈川県 小野沢邦彦

評 せっかくの世のしがらみやお仕事などの束縛のない自由な年齢の身になりながら風邪などに縛られている。早く元気に、という励ましでもあろう。「媪ごかり」の表現が諧謔味かいぎょうみを彷彿。

遊びではなくなり妻の磯菜摘み

秋田県 小田寫恭葉

評 「磯菜摘み」は「磯遊」ともいう。春の潮の干満の大きくなるころ、岩に張り付く石蓴いそもなど海藻類など摘む。

収穫と何よりも春の潮風の大気を浴びる解放感に囚われたのだから。

◆野良猫の抱よこ無し根雪村 長野県 下島 博

◆杖隠し背筋伸ばして初写真 滋賀県 島崎 佳子

◆石段に婆様集ふ小春かな 愛知県 中根 昂生

◆早はや四年余震の止まぬ年の暮 岩手県 関合 新一

◆ふるさとに母は寝いねしや雪の降る 大阪府 柏原 才子

◆悴せみみつ握る火箸を磨きけり 栃木県 小林 翠香

◆利休忌や我が手になじむ朱の袷あき紗 埼玉県 橋本 永子

◆風邪に伏す孫の見舞のチョコレート 岩手県 上沖 貞子

◆息白く家の周りの朝仕事 北海道 大野 節子

◆宿坊の時間たつぷり初湯かな 埼玉県 小林 茂之

*選者吟

野遊や電車がくんと無人駅

五灰子

*作句小見

この池の生々流転か蚪との紐 虚子
虚子の庭の小池の句。(『虚子俳話』)

嬉しい季節になりました。ものの芽、木々、花が騒ぎ初め、おたまじゃくし、目高たち、新しい小動物の子孫たちも嬉々と動き出します。外へ出て一句。写生。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

芹なづなそれから後は忘れても七草粥は母の思ひ出

静岡県 土屋 君江

評 七草粥に入れる春の七草の名全てを覚えていないが、母のこしらえてくれたあの味は忘れないと詠う。「思ひ出」と空間を広げることで、その時代の空気まで伝えるようだ。上句は下句を強めるための措辞そくじできつと忘れてはいない作者だ。

若水を沸かして湯割りを屠蘇とせん老い腑の底にしみいるものを

三重県 小阪 晋

評 年頭に一年の邪気を払い長寿を願ひ飲む屠蘇だが、屠蘇散を浸すのではなく「若水の湯割り」というのが洒落ている。常の暮らしぶりもかくやと偲しのばれる。韻律も心地よい。

◆ 初鳴きにしては上手な鶯と一緒に孫の来るを待ちをり

鳥根県 横山 囊吾

◆ 一夜にて二尺余積もりし風雪に散居の灯しいよいよ隠る

岩手県 穴戸さとる

◆ 隣村の草焼くけむり流れくる草の形の灰もまじりて

秋田県 小田篤恭業

◆ しんしんと雪積む吾妻嶺あづまのねの夜は更けて雪崩れるらしき地響きわたる

福島県 大槻 弘

◆ 吾が脇を自転車乙女すり抜ける顔分からぬが亜麻色の髪

岐阜県 後藤 進

◆ 正月飾りかつて我が家は手作りで父が注連縄しづな綱なわうを見ていた

奈良県 鈴木 重雄

◆ 母の字の中にふたつぶ涙あり母の涙を我は忘れず

長野県 毛涯 潤

◆ ぬるき湯にあごまで浸り目を閉じてわれはゆつくり胎児に戻る

埼玉県 田中 愛子

◆ 大空へ二の字描ける飛行機雲寒夕焼けの果てまで延びる

宮城県 鎌田登喜子

◆ テレビ前鐘の余韻に揺れながら故国を偲しのび月日数える

カリフォルニア 井上 健一

*選者詠

夢の中の鳥かと誘ふ丹色の尾にいろゆらして松の走り根をゆく

ちづ

*作歌小見

真冬の雪国の過酷さを皆さまの詠草からも窺い知ることができ心からお見舞い申し上げます。新年を寿ぐ歌も多く清々しい気持になる一方、世界情勢は不穏です。濃やかな感覚を磨きつつも大きな視野を持って詠い続けたいものです。



大本山永平寺



花まつり

四月八日は、お釈迦さまのお誕生を祝う「花まつり」の日です。

お釈迦さまは、産まれてすぐに七歩あゆまれ、右手は高く天を指し、左手は地を指して『天上天下唯我独尊』と宣言されました。

その時、二匹の龍王が現れて、それぞれ清らかな温水と冷水をそそぎ産湯としたという言い伝えがあります。この伝説は、偉大なお釈迦さまを仰ぎ尊ぶ気持ちから成り立ちました。

そして、『天上天下唯我独尊』の言葉より、「この世に授かった私という命は最も尊く、同様に他の命も最も尊いのです。皆それぞれ掛け替えのない大切な命なのだということに気づき、お互いに思いやり、尊重し理解し支え合いながら生きて行きましょう」と教えてくださるのです。

永平寺では、花御堂はなみどうを設け、お釈迦さまがお産まれになられた時の像をお祀りし、甘茶をおかけする（灌沐かんもく）、「仏降誕出班灌沐」法要を行い報恩感謝のご供養を致します。又、永平寺門前町では、お釈迦さまの母マーヤー夫人が天から降りてきた白象が胎内に入る夢をみてご懐妊されたという伝説により、白い象を形作りその上にお釈迦さまをお乗せし、お稚児さんの行列と共に永平寺へとゆっくり進みながら、みなでお釈迦さまのお誕生を盛大にお祝いするのです。

ご本山だより



大本山總持寺



大遠忌の報恩大授戒会

大本山總持寺では毎年四月十日から十六日まで「報恩大授戒会」が修行されます。

特に本年の大授戒会は、「リニューアル工事」が完了し再建当時のたたずまいに戻った大祖堂だいそどうを戒場に、峨山禪師六五〇回大遠忌にちなみ、戒師さまは大本山總持寺貫首・江川辰三禪師さまにおつとめいただき、教授師さまに大本山永平寺の南澤道人副貫首老師、引請師さまに大本山總持寺の石附周行副貫首老師をお迎えするという尊い内容になります。

戒というと、いましめることだと受け取って、あれもこれもするなという禁制のように思われるかもしれませんが、そうではなく、本来の立派な本性に立ちかえり、自分の中にある真理を呼び覚ますことなのです。

「目覚めるとき 私の中にいるもう一人の私」を授戒会のスローガンに、戒弟（授戒会の参加者）さんたちの大いなる足音を響かせていただきます。

また、期間中の十一日には、ノーベル平和賞を受賞されたダライ・ラマ法王の講演会が行われ、平和へのメッセージをいただきます。

大本山總持寺／045-581-6021